

教育知をめぐるグローバル状況と今後の日本：PISAの批判的再検討へ

日時：2016年6月26日（日）14:30-17:00

場所：上智大学 四ツ谷キャンパス 3号館 1階 3-123 教室

趣旨説明：

2014年5月6日、イギリス大手のガーディアン紙上で、米国を中心とした世界の教育学者らが「教育の伝統や文化が持つ多様性を、偏った尺度で測定している」と批判する声明文をインターネット上に公開し、この声明への賛同署名が広がっていると報じられ(※)、このことが日本のメディアでも紹介されたことは記憶に新しい（日経新聞 2014年5月31日）。この批判文書に発起人として名を連ねた研究者には、邦訳書を持ち日本でも馴染みのある名前が数多く含まれている。例えば、Stephen Ball（ロンドン大学）、Gert Biesta（ルクセンブルグ大学）、Noam Chomsky（マサチューセッツ工科大）、Henry Giroux（マクマスター大学）、Nel Noddings（スタンフォード大）、Diane Ravitch（ニューヨーク大）らである。

また、それに先立つ2013年には、数多くの各国比較教育学者の共著で、*PISA, power, and policy: the emergence of global educational governance* (edited by Heinz-Dieter Meyer and Aaron Benavot, Oxford Studies in Comparative Education, Symposium Books, 2013, 335 pp) というタイトルの研究書が公刊され、知識・能力、あるいは学校教育のグローバルな標準化に対して批判的な視座を明示して、PISAやこれを取り囲む諸文脈が再検討に付され、その書評が、比較教育学の最も代表的な学術雑誌 *Comparative Education* に掲載された。

他方で、日本では、全国共通大学入試新テストの問題をPISA型に転換する試みも進行中であり、初等中等教育改革においてPISA型学力への熱い視線は未だ覚めやらぬ状況にあり、上記のようなPISAに対する批判的諸動向に関しては、一部の例外を除いて十分な紹介や検討がなされてきているとは言い難い状況にある。

そこで、このシンポジウムでは、日本における代表的なPISA研究者の一人である教育学者篠原真子氏、上記書籍の書評者でもある比較教育学者高山敬太氏、及び、学力格差是正策や学力政策の比較社会学に関する重要な業績を持つ教育社会学者山田哲也氏とともに、PISAに関する批判的再検討のスタートを切り、今後の日本がとるべき教育政策の方向性に関して一定の示唆を得ることを目指したい。

※The Guardian “OECD and Pisa tests are damaging education worldwide” Tuesday, May 6, 2014.
<http://gu.com/p/3zqh5/stw>

発表者：

- ・ PISA が生まれた時代から考える～政策とエビデンス
篠原 真子（国立教育政策研究所）
- ・ PISAが日本の学校教育に与えたインパクト：B.Bernsteinのペダゴジー論の視点から
山田 哲也（一橋大学）
- ・ PISA とキーコンピテンシーの「ずれ」から見る新学力観と格差問題
高山 敬太（オーストラリア・ニューイングランド大学）

司会・コーディネーター：澤田稔（上智大学）

各登壇者関連業績

篠原真子（国立教育政策研究所 研究企画開発部 総括研究官）

「PISAが描く世界の学力マップ」（第1-24回連載）『内外教育』2014年

高山敬太（オーストラリア・ニューイングランド大学教育学部、上級講師）

Takayama, K. (2015). Has PISA helped or hindered?: Reflections on the ongoing PISA debate. Head Foundation Working Paper Series.

Takayama, K. (2015). Book Review, Asia as method in education: a defiant research imagination. *Comparative Education* 51(3): 468-471.

Takayama, K. (2013) OECD, 'Key competencies' and the new challenges of educational inequality. *Journal of Curriculum Studies* 45 (1): 67-80.

山田哲也（一橋大学大学院社会学研究科・社会学部 教授）

『学力格差是正策の国際比較』（共編著），岩波書店, 2015.4

「新学力テストの性格と課題—ペダゴジーの社会学の視角から」日本教育政策学会編『日本教育政策学会年報』 通巻 15 号, p.38-57, 2008